

日本クリスチャン・アシュラム連盟

イエスは主なり



日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 '94 3.1 90



『スタンレーの信仰』(2)

—第2回セミナー開会礼拝にて—

海老澤 宣道

スタンレーの聖霊に対する信頼は純粹でした。サタルのインド人後継者D・P・タイタス師も聖霊のバプテスマを受けた人ですが、「愛こそ最大のカルスマである」と言っています。(コリント第1書13の1~13)。これはスタンレーの信仰を裏書きする言葉です。

スタンレーは「イエスは主であり」、わたしたちは従(僕)であることを主張しつづけました。

彼はまた「神の全体主義」を唱えました。霊と物とは対立しているのではなく、物は霊によって賤われ、救われて行くのであると主張しています。

教会はイエスの弟子たちの霊的交わり(コイノーニア)によって始まりました。従って、たとえ教会堂があっても、もしこの霊の交わりがないならば、そこには教会はありえないと言わなければなりません。

個人と社会との関わりに就ては、社会を救おうとしない教会は肉体的ない魂と同様であり、個人的救いのない社会的福音は魂のない死んだ体と同様であるとなりました。両者が調和・結合するとき始めて人間を生かすものとなるのです。残念ながら、今日のキリスト教はこの問題を解決せず、問題の中に沈没していると言っています。

使徒行伝2章の初めにある、ペンテコステの日の「他国の言葉」を或る一派の人々は「異言」であったと解釈していますが、スタンレーによれば聖霊は人々に地の果てまでキリストを証する力を注ぐものであります。(同1:8)。

スタンレーはその著書「勝利の人生」や「すべての道のキリスト」の中で、『頼みにしていた人間の力の尽きたとき、自我を完全に捨ててキリストに従うなら、

聖霊の力が私たちに満ちてくる』と証ししています。

召命感に就てスタンレーは、彼がインドで伝道に行き詰まり、健康を害したときに、イエスの示しを求めて祈った経験を語っています。「すべてを私に委ねるか。自分の力を捨てよ」と言うみ声を聞き、一切をキリストにお委ねしたとき、彼は全く一新され、疲れを知らない霊的力に満たされて伝道に献身しました。それから30年後に、米国メソヂスト教会総会は彼を監督に選挙しました。彼は一夜の猶予を乞い、主に祈りました。その夜、イエスが「わたしがあなたを召したのは教会の上に立つ管理者としてではなく、福音の宣教者として遣わすためである」と言われたので、翌日総会に出席し、丁寧に感謝を述べ、満堂の涙に送られて、再びインドに赴きました。

神の国に就ては、ヘブル書12章28節を愛用しています。「天地は過ぎ行くであろうが、わたしたちは震われない御国を受けている。」それは主イエスも伝道開始の宣言、「神の国は近づいた」(マルコ1章15節)に告げられるところであり、復活の後も弟子たちに語り続けられた福音です。(使徒行伝1章3節)。スタンレーの信仰の2大支柱は、この神の国と永遠不変の人格であるイエス・キリスト(ヘブル書13章8節)にあって生きることであります。

彼は伝道の必要を説くだけでなく、世界中で6万回も説教をし、その説く所を人格、生活で実践しました。遺書『神の然り』には彼の信仰の霊火が燃えています。'71年末アシュラムの間に倒れたが「あの世へ行っても福音を語りたい。それができる所が私の天国だ」と言っていました。(日本アシュラム連盟理事長)

1994年3月1日



スタンレー
ジョーンズ
コーナー

どのように祈るか(一)

* 祈りとは本当に何か

「主よ、わたしたちに祈ることを教えてください、わたくしに」
と弟子たちがイエスに願ったとき、彼らが口にしたのは、人の心の底から発する人類共通の願い求めでした。なぜなら、あらゆる時代の人々が祈りこそは宗教の粹であることを直感的に知っていたからです。われわれがどのように祈るかを知らず、どのようにして敬虔であり得るかを知らず、そうでなければ、宗教は閉じたままの書物です。効果的な祈りの生活がないところでは、宗教心は鼓動をやめて、宗教は形式・習慣・教義のしかばねになります。

それなのに何と僅かなクリスチャンしか効果的な祈りの生活をしていないことでしょうか。(これは多くの教職を含まれています)。アメリカのキリスト教の最大の欠点を指摘するならば、私はためらわずに、信徒及び教職者の間の効果的な祈りの生活の欠如をあげたいのです。

賀川豊彦はアメリカ西海岸の日本人二世クリスチャンに言ったことがあります。「あなた方に一番欠けている点はあなた方が祈りの仕方を知らないことです」と。賀川は彼らのキリスト教が祈りの訓練を受けていないので、貧血症になり、実りが少ないことを知っていたのです。

私がキリスト教会に贈り物一つだけするのであれば、私は祈りの賜物を贈るでしょう。と言うのは祈りがすべてに先立つからです。

祈りは生活全体を高めます。私は実際の経験から、多く祈るか祈らないかで、私の生活が良くも悪くもなることに気付いています。私の祈りの生活が低下すると私の生活全体が低下し、私の祈りの生活が向上すると、私の生活全体がそれに伴って向上します。祈りにしくじると、すべてにしくじり、祈りに成功すると、どこでも成功します。

祈りの時に、霊的生活の戦いは、勝敗が決まります。祈りは人生のカリキュラムの中の選択課題ではなく、必須課題です。祈りなしには、適切な人間生活への卒業はできません。

恐らく、われわれは此の見解に多かれ少なかれ、納得していると思います。が、いかに祈るかは最も難しい点です。この「いかに」に答えようとするのが此の文の目的です。難しすぎると思う人がないように、梯の一番下の段から

始めましょう。

一、祈りの生活の探求を始めるに当り、「主よ、祈ることを教えて下さい」と小声で言ってみましょう。あなたの求め、そのものを祈りの中に浸しなさい。始めは何を祈っているかはつきりせず、影のように現実味がないと思えるかも知れないが、たゞたゞしくてもこれが霊的成熟への第一歩となり得ます。

二、あなたの求めを始めるとき、宇宙は開かれた宇宙であると言う祈りの背景をなす思想を心にとめていなくてはなりません。すべてが自然の法則により決められていて変更はなく、始めから予定されていることしか起こらない体系である閉ざされた宇宙という古い考え方はもう過去のものです。その代わりに、自然の法則はお支配しているが、これらの法則の間に、また法則を通して開かれた可能性がある、自発的な創造的な信仰に開かれた可能性のある宇宙がやってきたのです。この法則の間に自由がある世界にあつては、多くの事柄が人間の自由意志次第で決まるように、一物事が人間の意志がそうしようといふと決まれば実現しないように、一われわれが神としようといふと協力しなければ、実現しない多くのことがあるのです。われわれが祈りに入っていく時に、われわれはこの自由と可能性の世界に入っていくのです。

三、祈りの背景として役立つもう一

つの思想は祈りは弱い人の避けどころであるだけではなく、強い人を更に強めるものであるということなのです。弱い人だけが祈るのだという考えは誤っています。われわれの惑星上を歩まれた最も強い人物が祈りました。彼の最初の公的行動はヨルダンの川辺に立つことで、「そして彼が祈っておられると天が開けた」のです。彼の最後の公けの行動は、「父よ、わたしの霊を御手に委ねます」という祈りでした。この始めの行動と終りの行動の間で、彼の全生涯は祈りで満たされていきました。

※「キリストはだれにも必要である」の次の原稿が載っている米国アシュラム連盟の季刊誌未着のため、この記事は一時中断します。(編集部)

アシュラム生活の最良の友 アパ・ルーム

海老沢 宣道 編集

(年6回刊行の日々の糧)

国際的、超教派的、霊的な読物
価250円、〒90円、年2,040円

申込先 ☎256 小田原市国府津3-11
振替口座 (東京) 1-193834 アパ・ルーム
電話番号 0465-48-2010

日本語版は創刊以来43年続行中

アシュラムとは何か? Q&A

⑥「充滿の時の用い方について」

淵江 淳一

Q 前々号にて「聖霊の啓導と充滿」についてよく教えられましたが、アシュラムの最後のプログラムの「充滿の時」の用い方についてお聞きしたいのです。

A 私共はアシュラムに出席して最初の「開心の時」には、故スタンレー・ジョーンズ博士の指導に従い、各自が心を開いて自分の霊的な状態をかえりみ、自分の今一番大切なことは何であるかを、胸につかえたと思いと共に神と人との前に申し述べ、問題の解決を主に委ね奉るのですが、現状ではその場では思うように全員が告白するにはいならず、たいいてい「祈りの細胞」の場で、他の人の祈りに助けられて行なわれていることは止むを得ない実情であり、またこれでも差し支えないと思われ、そしてそれに続く静聴と黙想がアシュラムの中心的な課題で、己を空しくして御言を心の王座に受け容れ、「お言葉とおりこの身に成りますよつに」(ルカ一・二十八)と祈りぬくならば、主御自身が問題を解決して下さるにちがいない。「人にはできないが、神にはできる。神はなんでもできるからである」(マルコ十・二十七)。こうしてアシュラムの最後の「充滿の時」には、この

アシュラムの間に受けた恵みと解決された問題を、なるべく全員が一言ずつ告白して、声高らかに感謝の歓喜をおき上らせる。これが「充滿の時」の本領であります。

Q それはよくわかりますが、全員が発言するとなると出席六十人であれば一人一分間としても一時間、ところが一分間では足りない思いが残るので、もっと証しの時間が与えられないでしょうか。一面発言したくない人もいますから。

A 発言したくない人はそのままよいのですが、静聴と祈りの結果、そのアシュラムで与えられた恵みを短かく表明できない苦はあります。また一人五分も発言の割当があつたとすると、全員が終るまで五時間かかる。それに自分だけが特に恵まれたという証しは、ともすると賜物を誇る目慢話になつて、かえつて霊的傲慢になる危険を伴うものです。それ故「充滿の時」の発言はただ、結晶のように短い感謝の一言を集め、一同の花束として恵みの主に捧げるようにしたいものであります。

Q しかしやはりアシュラムは「聖徒の交わり」でもあるから、もっと互いに発言する時間がほしいと考える人もいのではないのでしょうか。

A アシュラムは聖徒の交わりにはちがいないのですが、まず主イエスとの交わりを確かにするのが先決条件で

す。どうしても自分の発言を聞いてもらいたい人には別に「讚美と証しの時」を利用してもらい、比較的多数の人に証しの機会を開くようになど、工夫の余地があります。しかし本当の証しは、アシュラムで得た献身の志をもつて教会に帰り、身を以て奉仕と証しに励むようになることで、これがアシュラム人の使命であります。主はおっしゃつた、「わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」(ヨハネ四・十四)

アシュラム開催の予定

○第七回バルナバ・アシュラム

〔日時〕五月三日(三)～五日(三)

〔場所〕日野市ラ・サール研修所

〔主題〕復活信仰「ヨハネ十一・二十五

〔助言者〕羽鳥 明師

〔会費〕一七、〇〇〇円(申込の時)

〔申込先〕岡谷市長地小萩 石神 勇

○第十二回東北アシュラム

〔日時〕五月十日(火)～十一日(正

午

〔場所〕福島県飯坂町いざか保養所

〔主題〕実が残るよつに「ヨハネ十五

一・十七

〔助言者〕大石嗣郎連盟理事

〔申込先〕福島教会・芦名直道宛

〔会費〕八、〇〇〇円 四月二十四日ま

で。

○第三十二回関東アシュラム

〔日時〕九月十三日(火)～十五日(木)
〔場所〕奥多摩・福音の家
*その他は未定。

個人消息

○石神フミ姉 岡谷・バルナバ・アシュラム世話人。日本アシュラム理事・石神 勇兄の夫人、去る十月十八日、83才で永眠された。謹んで哀悼の意を表します。

○芦名直道師 東北アシュラム委員長。十一月中旬、腸腫瘍の手術をされたが、順調に回復、伝道活動に復帰のよし。

アシュラムの原則と

実際 —第3版—

海老沢 宣道 著
新書版 52頁 価300円 千90円

発行所 日本クリスチャン・アシュラム連盟
申込先 東京都目黒区中央町 1-21-10 大石 嗣郎
振替口座 (東京) 0-4558番

D.P・タイトス

御国を来らせ給え

訳者 植村 俊雄
(価300円 千90円)

インド途上のキリスト

1986年10月改定版
著者 E・S・ジョーンズ
新訳者 淵江 淳一
(特価1,500円と送料390円)

編集長 海老沢 宣道
発行人 大石 嗣郎
定価 一部60円 千80円

★第十七回城西アシュラムの報告

一九九三年十一月二十三日(休)、高円寺教会に於て湖江師を助言者として開催。城西独特の自由で和やかな空気の中で信徒の交わりをすると共に、静粛な霊交の時をもった。準備は草村師によりなされ、感謝であった。



▲城西アシュラムの人びと

読者からのお便り

中過日は奥多摩のアシュラムでお世話になりました。年のせいか関節炎にかかり不自由にしており、主のいやしに頼っています。お祈りください。

千葉・流山市 尾原尚子

中二十年もキリストを信じながら、

の仏教に郷愁に似た思いを捨て切れませんでした。人は、仏教により人間が欲から解放されるといいますが、自分が二足のわらじを履いているのではなにかとの疑問を抱いています。89号のジョーンズ師の「キリスト教以外の信仰は人間の神追究であるが、キリストの福音は単に人間の神追究ではなく、神の人間追究である」という言葉に納得させられました。

千葉・菌田理恵

中主の御名をほめたたえます。はじめて関東アシュラムに参加し、スタンレー・ジョーンズ師のインドでのアシュラムをビデオで見ることができ、主の恵みを豊かに受け、感謝いたしています。夜の集會に讃美させて頂いたことも祝福でした。私たちは訓練を受けた聖歌隊でもなく、普段の通り喜んで讃美したのを用いて頂き、皆様と共に讃美できましたことを喜んでいます。

信仰の先輩、また先輩の方々と時を過ごし、多くのことを教えられました。主にあつて年を重ねることは何とすばらしいことかと思いました。

十月六日には御園バプテスト教会で最初のミニ・アシュラムを開きました。参加者七名で、三時間という短いものでしたが、主が導いて各人のニードに直接こたえて下さり、ご臨在の恵みを感謝いたしました。私たちは常に主に癒く者、主に応答して生きる者である

と実感しました。

御園バプテスト教会・河村康子

谷口浩三兄を偲んで

横浜市・高橋 俊雄

イエスは主である。

関東アシュラムの永年の協力者・谷口浩三兄は昨年三月八日、肝臓癌のため永眠されました。私は個人的にも信仰上でも何かと交わりをもっていましたので、三月八日特別室に移ったと聞き病床を見舞いました所、昼頃から容態が急変していました。その苦しい中から私の名を呼んでくれたことは忘れられません。折から遠方の牧師方も来られて、次々に讃美と祈りを捧げました。その歌声を聞いた或御婦人は、み言葉を伝えられ、私も教会に行きますと話していました。谷口兄は苦しみがひどかったのに本当に平安なお顔つきでした。彼ほどアシュラムの影響を受けた人は珍らしいでしょう。停年を一年繰り上げて退職した彼は毎朝静聴の時をもち、献身するか、聖書の勉強に専念するか考えましたが、何回かの入院であきらめたようでした。箱根でのセミナーの後、二人で早雲山・強羅をまわったのも良い思い出になりました。

理事会・セミナー・国際アシュラム

*九十四年全国理事会及び第三回アシュラム・セミナーを次の通り開催します。

日時 九十四年六月六日～八日
場所 山崎製パン会社箱根山荘

*第九回国際アシュラム

日時 九十四年七月六日～十日
場所 スエーデン・エンチェピング

連絡先 連盟事務所・大石嗣郎

*日本クリスチャン・アシュラム四十周年記念大会

九十五年十月ごろ。東京と大阪にて。助言者 ジェイムス・マシューズ監督

*同四十周年記念展示コーナー開催

関東及び関西にて。担当 大石・湖江。

めぐみの証しの募集

ハガキで左記宛お送り下さい。

〒321-12 今市市吉沢五七九一七

日本アシュラム会報編集係

白川 鄭一

新刊 聖ヨハネによる福音書
— そのインド人への証し —
A・ダヤ・プラカシュ・タイタス著
海老沢宣道・飯島庸江 共訳

スタンレー・ジョーンズ師はインド人にはインド人の如き心を以て、イエスは宇宙的な主であると説いた。その志を継いでイエスこそインド東洋思想の完成者であると著者はこのヨハネによる福音書の解説を以て力説している。東洋人必読の書。
1992年1月20日連盟発行 定価1,200円